

【創育クリエートメールマガジン vol.7】 [私立中学の英語入試動向]

2018.4.18 発行

日頃は格別のご愛顧を賜りまして、ありがとうございます。

本メールは、弊社、創育クリエートが送信元となり、森上教育研究所の協力のもと、教育業界に関するさまざまな情報をお届けするメールマガジン「創育クリエートメールマガジン」です。

なお、本メールは、日頃お付き合いのある、学校関係者様、企業ご担当者様、以前にお名刺を交換させていただいた方へお送りしています。

さて、第6回「国際バカロレアが目指すもの」はいかがでしたでしょうか。

第7回は、「私立中学の英語入試動向」がテーマです。

ぜひ御愛読いただければ幸いです。

＝大学入試改革を先取り？－私立中学の英語入試動向－＝

先日、大学入試センターが、2020年度スタートの大学入学共通テストで英語4技能を測るために活用する民間資格・検定試験として、ケンブリッジ英語検定、TOEFL、TOEIC、GTEC、TEAP、CBT、英検(条件付き)、IELTSの8種類を認定しま

した。検定料や受験機会の公平性確保など課題はありますが、共通テストの詳細が明らかになってきたという点では、大きな一歩と言えるでしょう。

外部検定試験は、2018 年度入試においてすでに 152 の国公立・私立大学の一般入試で活用されています。※1

中学入試においては、首都圏の私立中学で帰国生入試とは別に、一般入試で英語必須入試を 33 校、選択入試を 70 校が実施しています。

ここまで増えた最大の理由は、やはり大学入試改革によって、大学入学共通テストにおいて「英語の 4 技能を問う」という方針が打ち出されたことです。

入試方式も、当初は面接、英作文やペーパーテストがほとんどでしたが、年々多様化する傾向にあります。共立女子中学では、今年「インタラクティブ入試」として、英語によるアクティビティ(ゲームや対話)と算数の 2 科入試を実施しました。これには 60 名を超える出願がありました。

4 技能のうちの「聞く」「話す」を測る入試形態が増える一方、ここ 2 年余りで増えてきたのが、外部検定試験の活用です。英検 2 級、あるいは 3 級以上の取得者に対して入試当日の英語の試験を免除するといったものから、取得している級や TOEFL Primary のスコアに応じて加点をするといった方式もあります。まさに、大学入試改革を先取りするかのような入試の変化です。

東京都市大学付属中学では、2015 年度一般入試から英語・算数・作文を課す「グローバル入試」をスタート。男子の人気進学校の英語入試導入は大きな話題となりました。入学後は、帰国生とともに、ネイティブスピーカーによる英語の特別授業を受けることができます。

英語入試を行う学校が増えている中で、確実に受験者を集めているのは、東京都市大学付属中学のように、それまで英会話教室などで磨いてきた英語力をさらに高いレベルに伸ばすためのシステムが明確になっている学校です。

新指導要領では小学 5、6 年生で英語が教科として教えられます。2 科、4 科といったオーソドックスな入試を行っている私立難関中学でも、昨年の学校説明会において「小学校での英語教科化の動向を注視し、今後の英語入試について検討していきたい」と方針説明した学校がありました。難関校のこうした動きは大きな影響力を持ち、私立中学での英語入試の導入はますます増えることが予想されます。

※1 旺文社教育情報センターによる

(執筆：森上教育研究所アソシエイツ 高橋 真実)

いかがでしたでしょうか？

次回も皆さまにとって有益となるような教育情報のメールマガジンを配信できるよう努めて参りたいと思います。

なお、本メールマガジンですが、内容等についてのご意見、アドレス変更、配信停止については末尾の E-mail アドレスよりご連絡をお願いいたします。

■送信元：株式会社 創育クリエート

東京都港区西新橋 3-24-3

T E L . 03-5472-5772

create@soiku-c.co.jp